

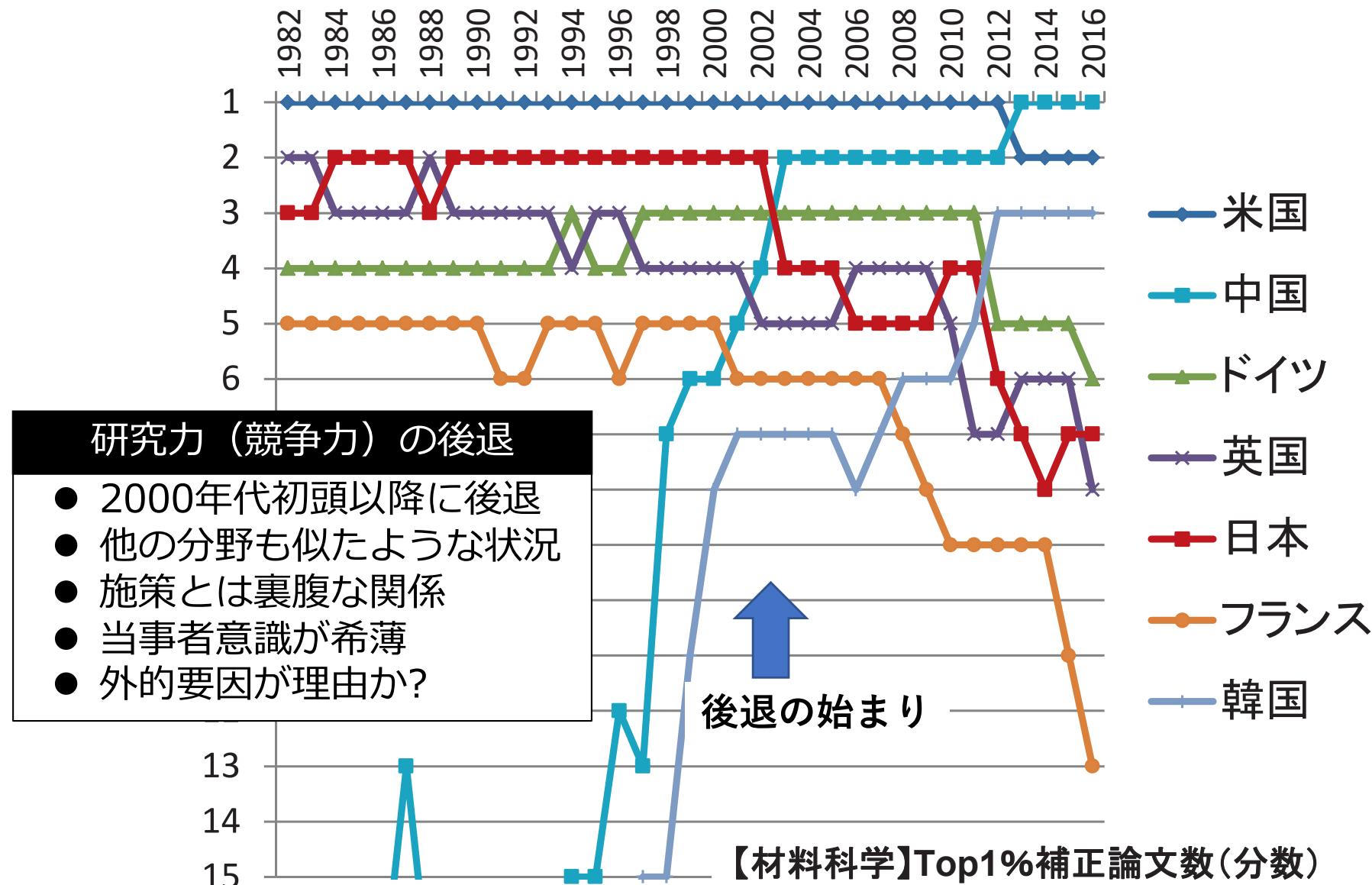
我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会（研究力委員会）

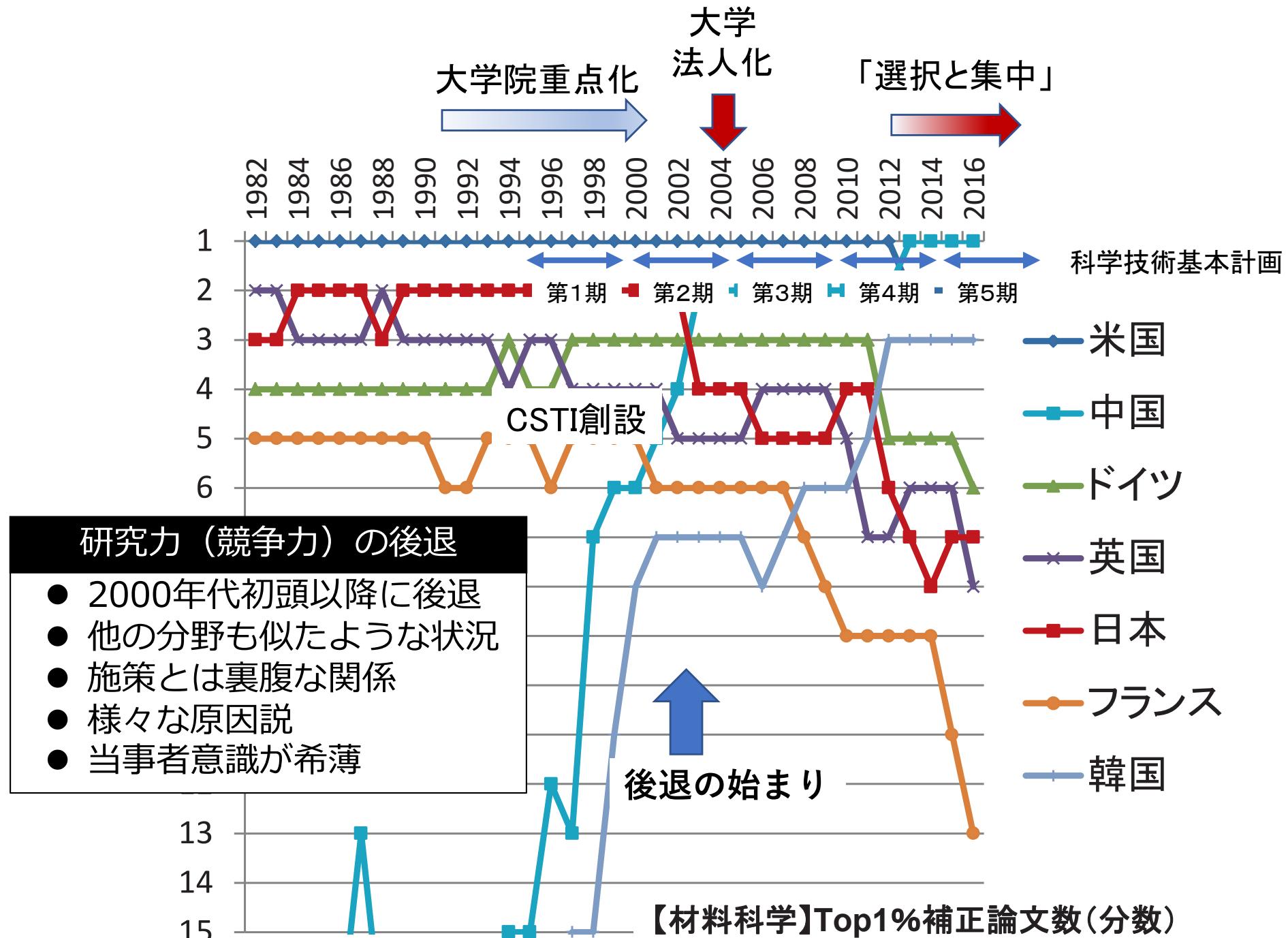


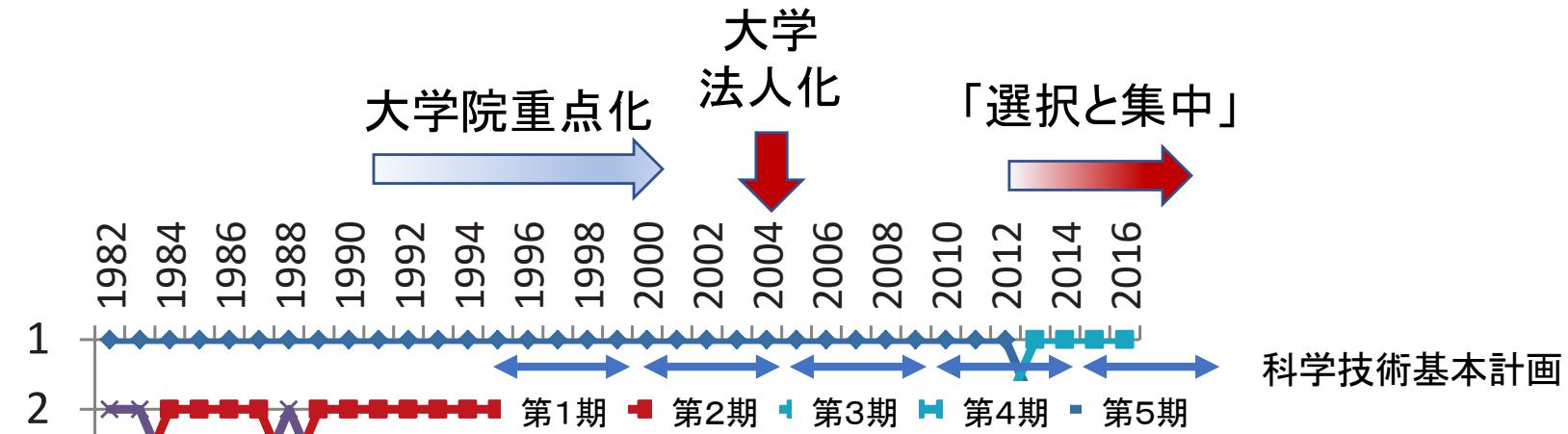
山口 周（委員長）

（24・25期日本学術会議第三部会員）

出版論文から見た理学工学系研究力（国際競争力）







「後退」の原因は？ ← 自由度・柔軟性の喪失？

- 大学院重点化→小講座制から研究室制+助手数減
 - 大学法人化
 - 「選択と集中」政策
 - 科学技術基本計画
 - 委任経理金→共同研究経費
 - 企業の国内投資減
 - 「競争原理」至上主義
 - ...
- (1) 2000年以降の変化
(2) 他の分野と比較して、何が変わったか
(3) 当事者（実感）として、何が変わったか
(3) 多くは、何が変わったか



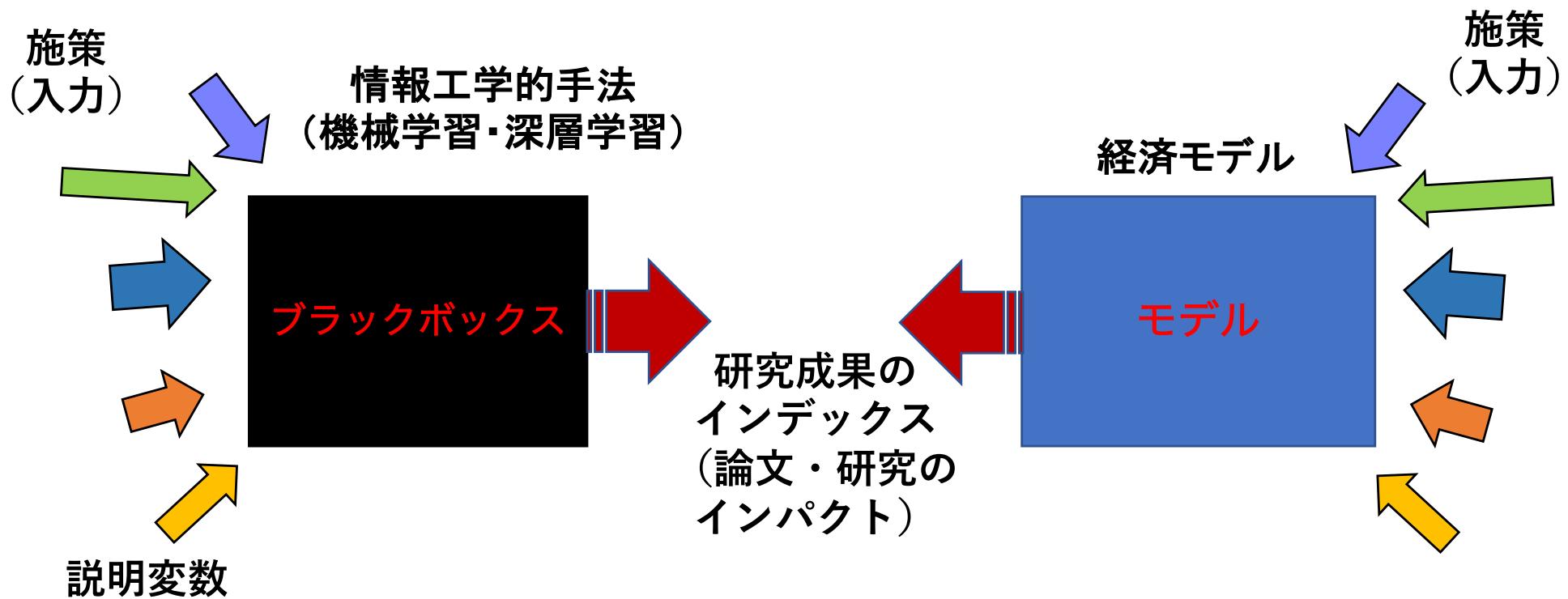
委員会のねらいと進めかた (1)

(1) 「原因の解析」か「今後の施策」か？

- CISTI：10年の期間の施策立案・司令塔
- 日本学術会議：長期にわたる科学的解析・事実に基づく提言

(2) 科学的（情報工学・経済学）解析：2つのアプローチ

- 多様な解析：時間遅れを含む複雑系



研究力後退に関する著書

- ・ 豊田長康:「科学立国の危機」
- ・ 岩本宣明:「科学者が消える ノーベル賞が取れなくなる日本」
- ・ 藤村正司:「なぜ研究生産性が失速したのか 一大学教員の現在一」
- ・ 林 隆之:「日本の研究パフォーマンスと研究実施構造の変遷」,
「大学の研究促進施策・環境が研究生産性に及ぼす効果に関する行動科学的分析」
- ・ 山口栄一:「イノベーションはなぜ途絶えたか 一科学立国日本の危機」
- ・ 每日新聞毎日新聞「幻の科学技術立国」取材班: 「誰が科学を殺すのか 科学技術立国「崩壊」の衝撃」

「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」活動の概要

- (1) これまでの論点を整理：様々な出版、解析結果（原因説）、各省庁の審議会・検討部会、CSTIなどの審議まとめ、報告書や審議内容、結論(日本学術会議が発出した提言等を含む)を集積して解析
→ 専門家を集めた学術フォーラムを開催
- (2) 科学者と学術コミュニティに対する大規模アンケート調査の実施：科学者/コミュニティの現状認識、何が原因か？今後はどうすべきと考えるか？など意見を問う
- (3) 最新の科学的手法による解析：総論文数やTop1%論文のトレンドなどを結果として、相互に関連しているファクタから独立した説明変数やそれらの相関について誰もが納得できる科学的な解析を行い、何が原因だったのかを明確化
→ 政府・関係省庁、CSTI等の政策の評価
- (4) 聞き取り調査の実施：関連省庁や研究資金配分機関、大学・研究所等が国際競争力の低下についてどう考えてどのような施策をとってきたのか、それらに関する反省点を問う。できれば産業界からの意見も集約
- (5) 有効な今後の施策提案
→ 政府に対する勧告

委員会の進めかた（25期具体的プラン）

(1) 留意点

- ・日本学術会議の新しい取り組みとして高い注目度
- ・市民・科学者コミュニティへの周知
- ・会員・連携会員への迅速な情報公開と意見交換

(2) キックオフで盛り上げる（←報道とも連携）

- ・学術フォーラムの開催（WG）
 - ・ノーベル賞発表ウィーク（総会）前後に実施
 - ・多様な意見を一堂にを集め議論（ネット公開）
- ・会員・連携会員を対象とするアンケート調査（WG）
 - ・意識調査（継続的に階層的調査実施） ← 当事者感覚・意識

(2) 科学的（情報工学・経済学）解析

- ・WGで専門的審議
- ・広汎な学術会議の優れた人的リソースに期待：学術会議でこそ可能な優れた解析
- ・焦点を絞るための意見を隨時募集